
開講科目名：金融論研究（A）（2単位）
開設年次：1年 2年
開設学部：会計学研究科博士前期課程会計学専攻
担当者：峯岸 信哉

《授業の概要》

【授業の目標】

本講義では日本の金融業が直面する状況や課題について考察する。金融業が産業界に非常に大きな影響を与えていることは言うまでもない。本講義の具体的な目標は、その金融業がどのような競争環境に身をおき、どのような変革を迫られているのかについて理解することである。キーワードはリレーションシップ・バンキングである。以前主流であった大企業中心・大都市中心の経済発展が限界を迎えていることは、バブル崩壊の事実を振り返るまでもない。新しい産業構造を作りイノベーションを起こすためには中小企業や個人の力を結集させることが不可欠であり、そのためのリレーションシップ・バンキングが果たす役割を中心とした検討を行いたい。

【質問への対応】 随時対応

【授業の計画】

1. イントロダクション
2. 金融政策 1（金融政策の種類）
3. 金融政策 2（信用秩序維持政策）
4. 金融政策 3（破たん処理）
5. 金融政策 4（日本のプルデンシャル政策の歴史）
6. 金融制度の変革 1（金融ビッグバン）
7. 金融制度の変革 2（金融界の再編（1. 民間金融機関））
8. 金融制度の変革 3（金融界の再編（2. 公的金融機関））
9. 金融制度の変革 4（デリバティブ（1）：背景）
10. 金融制度の変革 5（デリバティブ（2）：手法）
11. 金融制度の変革 6（証券化（1）：背景）
12. 金融制度の変革 7（証券化（2）：影響）
13. 国際金融の諸問題（国際金融制度）
14. 国際金融の諸問題（欧州通貨統合（1）：背景）
15. 国際金融の諸問題（欧州通貨統合（2）：統合プロセス、影響）

※なお、履修者の理解度を優先し、授業内容は適宜変更する場合がある。

【成績評価の基準と方法】

レポートの内容（80%）および授業への貢献度等（20%）を総合的に判断して評価する。とくに、報告・討論などをいかに主体的に取り組むかをチェックする。

《テキスト》

特定の教科書は用いない。

《参考書》

講義中に教員が指示する。